



「冬のライオン」作:ジェームズ・ゴールドマン 翻訳:小田島雄志

演出:森新太郎

The Lion in Winter

演出 森新太郎 インタビュー

愛憎渦巻くパワーゲーム 繰り広げるのは夫婦漫才？

演出・森新太郎×主演・佐々木蔵之介でおくる
イングランド初代国王ヘンリー二世をめぐる熾烈な家族劇。

——今回なぜこの戯曲を選んだのですか。

森 蔵之介さんとは1回喜劇をやりたいと思っていました。今作の存在を知ってまず映画版(1968年 監督:アンソニー・ハーヴェイ)を見たときは、歴史上に実在した人物を扱った割とどろどろした人間ドラマだなと感じたのですが、その後に戯曲を読んだら印象がまるで違って「これ、王道のシチュエーションコメディじゃないか」と。この家族に蔓延している“孤独”という病は現代にも通じる深刻なものではあるけれど、彼らが性懲りもなく繰り広げるパワーゲームは喜劇以外の何ものでもありません。作者の諧謔精神をしっかりと理解したならば、笑わせて笑わせて心に突き刺さる、そんな舞台になる予感がしました。目指す山は高いと思いますが、蔵之介さんと挑みたかったのはまさに今作のような喜劇です。

——ヘンリー二世はどのような役ですか。

森 呆れるくらい唯我独尊な親父で、こんな人

がそばにいたらかなり迷惑ですね(笑)。でも芝居だとかこういうキャラクターこそ輝きます。狡猾な反面ちょっと間抜けで、情を捨てきれないところもある。己の欲望に真っ正直な野生のライオンのごとく、蔵之介さんには暴れまくってもらいます！

——ヘンリーの妻・エレノアについても教えてください。

森 映画版ではキャサリン・ヘプバーンが見事に演じていた役で、男性優位の時代にあっても豪気かつ奔放に振る舞っていた妃だそうです。明るく軽やかでありながら大きな喪失感を抱えている、その両面を表現できる高畑淳子さんにピッタリの役だと思います。

——お二人が繰り広げる夫婦のバトルに期待が高まります。

森 2011年に「欲望という名の電車」のプランチ役を演じる高畑さんを拝見したら、所々で笑いを取っていたんです。重い作品というイメージ

ジがあったのでびっくりしましたが、それは高畑さんが戯曲に描かれているユーモアの部分をちゃんと掬い上げられる役者さんだから。蔵之介さんも間合いとか力の抜き方が非常に巧い人ですから、この二人のバトルは全編にわたって夫婦漫才のようになるでしょうね(笑)。

——中世英国の史実に基に描かれた本作ですが、ジェームズ・ゴールドマンはアメリカの作家と知り驚きました。

森 これが書かれたのはベトナム戦争の最中(1966年)なんですよ。セリフの端々に戦争に対する皮肉や、アメリカ国民の抱いていた不安感が表れている気がします。設定がクリスマスというのも実に痛烈なユーモアですよ。本来は慈愛に満ちた日でなければならぬのに、警戒心や敵愾心が強まるばかりで平和はどんどん遠ざかっていく。ユーモアの向こうに作者のやるせなさが垣間見えます。

——7人だけの密な会話劇、森さんがどんな演



Mori Shintaro

photo:長谷川 潤

出を見せてくださるのを楽しみます。

森 キャラクターが抜群に面白く描かれているので、それを追求できる実力派の役者さんを集めています。ただ、いかにもな歴史劇を期待されるとちょっと困るな、というのが本音です。中世ヨーロッパに実在した人物が登場して、彼らのパワーバランスも史実にのっとってはいますが、クリスマスにこのような会合があったというのはもう完全なるフィクションですから。どの登場人物も自分たちの立ち居振る舞いをや

たら「お芝居」と言いますし、これは演劇であるということをあえて強調している作品だと思うのです。なので、まるで見世物小屋で茶番劇が演じられているような、そんな舞台美術や衣装をいま考えているところです。あと、人生の冬の時期に差し掛かった夫婦の話でもあるので、彼ら二人の不屈のエネルギーを存分にお見せして、その年代のお客さんにエールを送れるような作品になればと思っています。

取材・文:久田純子(フリーライター)



役者の魅力を味わい尽くすのに相応しい作品

時は英国王家の草創期、1183年のクリスマス。場所はイングランドの初代国王ヘンリー二世の居城。豪傑で実力と運を味方にしてきた彼が築き上げた領土、そして跡目を誰が継ぐのか決着をつけるべく、一同が会した。集まったのは、妻のエレノア、長男リチャード、次男ジェフリー、三男ジョン、そして王の愛妾アレーと、その異母きょうだいで敵国フラ

ンス王のフィリップ。1966年にブロードウェイ初演、'68年に映画化(ヘンリー二世:ピーター・オートール、エレノア:キャサリン・ヘプバーン、リチャード:アンソニー・ホプキンス)。その後も度々、名優達により上演され、現在まで国内外を通じ、役者の演技力、表現力を最大限味わい尽くすのに相応しい名作として観客を魅了し続けている。

2月26日(土)~3月15日(日)
プレイハウス 詳細はP10, P12へ

作:ジェームズ・ゴールドマン 翻訳:小田島雄志
演出:森新太郎
出演:
佐々木蔵之介
葵わかな 加藤和樹 水田航生 永島敬三 浅利陽介
高畑淳子

特設公式サイト: www.thelioninwinter.jp



佐々木蔵之介
ヘンリー二世
イングランドの
初代国王

葵わかな
アレー
ヘンリーの愛妾で
フランス王女

加藤和樹
リチャード
ヘンリーの長男

水田航生
フィリップ
アレーの異母
きょうだいで
フランス王

永島敬三
ジェフリー
ヘンリーの次男

浅利陽介
ジョン
ヘンリーの末子

高畑淳子
エレノア
ヘンリーの妻